

No.58 シスプラチンを含むがん薬物療法後の急性期予防的制吐剤投与率について



P（PLAN：課題設定）

- ・シスプラチンを含むレジメンについては、国内ガイドラインに準拠し、高度催吐性化学療法（HEC）に対する適切な制吐療法を実施することを目標としました

D（DO：実施）

- ・シスプラチンを含むレジメンの制吐療法として、NK1受容体拮抗薬、5-HT3受容体拮抗薬およびデキサメタゾンをセット登録しました
- ・病棟および外来業務において、制吐剤の処方内容およびオーダー状況を確認しました
- ・制吐剤の処方またはオーダーが確認できない症例については、疑義照会を実施し、適正な処方を促しました

C（CHECK：評価）

- ・2025年3月におけるシスプラチンを含むレジメンのオーダーは108件であり、そのうち高度催吐性化学療法（HEC）が82件（75.9%）、中等度催吐性化学療法（MEC：GEM + CDDP療法等）が26件（24.1%）でした
- ・HECに対する制吐剤投与率は92.7%（76/82件）であり、一部診療科（頭頸部外科）を除くと100%の投与率でした
- ・一方、MECに対する制吐剤投与率は61.5%（10/26件）であり、更なる改善が必要であると評価しました

A（ACT：改善方針）

- ・NK1受容体拮抗薬が投与されていなかった頭頸部外科に対してヒアリングを実施し、未投与となった要因を分析するとともに、改善策を検討してまいります
- ・引き続き、シスプラチンを含むレジメンの申請時には、高度催吐性化学療法（HEC）のガイドラインに準拠した制吐剤をセット登録し、適切な制吐療法の実施を推進してまいります